

## 講演会のご案内

### 函館から地球と月を考える

測地学は、地球や月を対象に、精密な形状や位置を測定し、さらにその変化を追及する自然科学の一分野です。私たちの周囲では、大きな地震や火山活動が発生しますが、それにとまって地表は大きく変動します。地殻変動を解析して地震や火山現象のメカニズムの解明を行い、予知をめざすことは測地学の重要なテーマです。一方、月についても詳細な地形の研究から、その成り立ちを明らかにする研究が日本の人工衛星によって、まさに今、大きく進展しようとしています。

測地学を専門とする研究者が集まる日本測地学会の秋季大会が、平成 20 年度は、函館市において開催されます。学会に合わせて、10 月 24 日には、最新の学問の成果を函館やその周辺にお住まいの皆さんにご紹介する一般向けの講演会も開催されます。講演会では、国立天文台佐々木教授による人工衛星を用いた月研究の成果の紹介の後、北海道大学大島准教授および笠原教授が道南火山の活動および北海道とロシアの地震活動について、それぞれ、わかりやすく講演します。

能登半島、中越沖、岩手・宮城内陸など、最近、わが国では、活断層による大きな地震災害が頻発していますが、函館市も函館平野西縁断層帯という大規模な活断層帯に隣接して立地しています。さらに、やや遠いとはいえ、駒ヶ岳、渡島大島、恵山などの活火山に取り囲まれており、これらの火山が大規模な活動をした場合には、函館周辺もその影響は免れません。一方、測地学は、正確な位置を扱うことから、地図作成に基準を提供する役割も担っていますが、函館は、世界に誇るべき正確さの地図を独力で作成した伊能忠敬が、壮大な日本地図作成事業の第一歩を印した地としても有名であり、測地学を志す者にとっては忘れることのできない土地です。このように、函館と測地学とは、実は深いつながりがあり、地球や月に関して興味のある方、また、防災に関心のある方々に、この機会を利用して最新の測地学の成果にふれていただきたく、ここに、ご案内いたします。

日時：2008 年 10 月 24 日（金）16：00-18：30 会場：函館市民会館 主催：日本測地学会

#### プログラム

##### ・月探査機「かぐや」が明らかにした新しい月の世界

佐木 晶（国立天文台教授） 専門は、惑星科学、宇宙空間科学。KAGUYA（月）の他にも NOZOMI（火星）や HAYABUSA（小惑星）等の人工衛星計画に参加。国立天文台 RISE 月探査プロジェクト長。

##### ・20 世紀の初めに起こった道南三火山の噴火

大島 弘光（北海道大学准教授） 専門は、火山学。火山噴火予知連絡会監事および委員等を歴任。道内に限らず多くの火山の噴火予知計画に参画。

##### ・北海道の地震とロシア

笠原 稔（北海道大学教授） 専門は地震学、地殻変動論。地震調査委員会委員等を歴任。ロシアとの共同研究を通じて北海道の地震活動の解明に取り組む。

問い合わせ先：日本測地学会事務局 TEL 03-5684-3358・3355

北海道大学 2008 年日本測地学会準備委員会 TEL 011-706-2759（担当：古屋）

参加費は無料です。申し込みも必要ありません。当日、直接会場へお越し下さい。